

染香

ぜんこう

福 泉 寺 寺 報
令和5年9月
第 119 号
毎月 1 日発行

ホームページ



お寺 LINE



子ども行事



前々坊守が教えてくれたこと2

「楽しかったね。またやろうね」

そうやって周囲を和ませたのは、ある葬儀での低学年くらいの女の子の言葉です。子どもだけでなく、久しぶりに家族親族が集まって時間を共にするだけでも、大人にも大きな意味がありそうだということを教えてくれるようです。

先月の直子おばあちゃんの通夜葬儀ですが、今は、和やかな時間を過ごさせてもらったという感覚が残っています。それにはやはり、我が家の三人の子どもの存在が欠かせません。

前日初対面の親戚のお姉ちゃんと、かくれんぼをして遊べるなんて、その純粋な感性が羨ましくすぎます。お姉ちゃんたちと出会えたことも、直子おばあちゃんがくれた『贈り物』と受け止めています。

人間である以上、大切なこと

それだけではありません。遊ぶことばかり考えていた下の子二人ですが、火葬の時は大泣きをしました。人間の身体に火をつけて骨しか残らないという現実を、本人たちは「ア

タマ」でなく「カラダ」でも感じたのでしょうか。とにかく、大人である私ですら、どのように表現したらいいかわからないような出来事に触れる機会を得たことは、これからの人生において、大きな「財産」になること間違いなし、と信じています。

「財産」というと、私たちはどうしても経済的な事柄を連想します。

振り返れば、私が今日まで生きてきて、「生活」を支える財産とは別の、「人生」を支える財産を、あらゆる人から与えてもらっているのだと思うのです。子どもたちにもそのように感じてもらいたい。

それは時に、当たり前すぎて、足元にあつて見えないもので、それゆえに感謝の気持ちも湧きにくいものかもしれません。

今月は満中陰の法事です。子どもたちには申し訳ないけれど、学校や幼稚園を休んでもらって、私とともに、これら「財産の相続」をしてもらおうと思います。

(ちなみに「相続」は仏教語です)

(住職)

真宗の法事 あれこれ

【一緒に読経】

先日、他宗派のお通夜に参拝しました。「皆さんも一緒に読みましょう」ということで、お経本が席においてありました。

「皆さん、こんな感じなんだ。読みにくい！難しい！けど、読みたい」

耳をすませば、かすかに他の方の声が聞こえてきます。住職さんも、なるべく読みやすいように配慮しているのが、息継ぎや抑揚の具合から感じてとれます。

朗々と読経声が響くご縁もありがたいですが、このような「たどたどしさ」が残るお参りも、なかなかいいです。

皆さんも、「どうぞ一緒に」。

ちょっと あたまの こりほぐし

奥さんが、野菜の中に入ってしまった。

さて、何の野菜でしょうか。

※ヒントは『いも』。答えは裏面です



おてらより

秋彼岸・永代経のご案内

日時：九月二十三日（土）十四時

講師：歓喜庵様、当山住職（予定）

『供養』って何だ

『永代経』と『永代供養』は

百八十度ちがう

ご参拝を心より心よりお待ち申し上げます。

無縁改葬のご案内

お寺の境内地にあるお墓について、使用者が不明のお墓を撤去する手続きを開始いたしました。当該墓に「プレート」を付けたしました。情報のご提供を宜しくおねがいいたします。



葉っぱのフレディ

福岡 義朝『赤光』一九九九年九月



最近、「葉っぱのフレディ」という本が話題になっていきます。これは子供の童話の本ですが、内容は死というものを扱っており、大人の心の癒しとして高い評価を受けております。俳優の森繁久彌さんは子供に先立たれ、自らの老いの中でこの本にこそ救われたと言っておられます。今回はこの「葉っぱのフレディ」の大筋を記させていただきます。

フレディというのはある公園にある大きな樹木の一枚の葉の名前です。フレディは春に生まれ夏に向けて厚みのある立派な葉に育ってゆきます。そして多くの仲間

の葉っぱにかこまれていきます。隣の葉っぱはアルフレッド、右側の葉っぱはベン。そして親友のダニエル。度の葉っぱも同じように見えて個性が異なります。

寄せ合って日陰を作り、葉っぱをそよがせて涼しい風を送ってあげます。充実した夏の日々が続きます。

ところがあつという間に夏が過ぎ、冷たい秋がやってまいります。フレディ達はブルブルふるえるようになります。もうかつてのような太陽の強い光もありません。そして緑に輝いていたフレディ達はいつの間にか黄色になってゆきます。そしておのの葉っぱが赤や茶色に変色してゆきます。

やがて冬が近づいてきます。葉っぱたちは冷たい風の中で「こわいよう。さむいよう」とおびえます。フレディは友達のダニエルに尋ねます。「僕たちはこれからどうなるの」ダニエルは答えます。「僕達は太陽や月から光をもらい、風に励まされて、樹の為に人の為にも役割の仕事を全部やり終えた。だからここから引越してゆくんだよ」フレディは叫びます。「いやだ。僕はずっとここにいたい」そしてフレディはしばらく考えてまた訊きます。「ダニエル、引越すということはひょっとして死ということなの。僕は死ぬのがこわいよ」

ダニエルは静かに答えます。「まだ経験してないことは恐いと思うものだ。でも世界は変化し続けているんだ。変化しないものはひとつもないんだよ。春が来て夏になり秋になる。葉っぱは緑から紅葉して散って行く。変化することは自然なことな

んだ。君は春が夏になるとき恐かったかい。緑から紅葉するときこわくはなかったらう。僕たちも変化し続けているんだ。死ぬということも変わるものの一つなんだよ」やがてある日の夕暮れ、金色の光の中にダニエルは満足な微笑みを浮かべて枝から離れてゆきます。「さよならフレディ」そして次々と仲間たちは一枚一枚枝から離れて行きます。とうとう真っ白な雪が降り始めます。いよいよフレディにその時がやって来ました。

ある日の明け方フレディは迎えにきた風につて枝を離れました。痛くもこわくもありませんでした。ふわふわとしばらく空中に舞って、そつと地面に降りてゆきます。

その時フレディは生まれて初めて自分のいた樹全体の姿を見ることができました。このお話から自ずと仏法の生死観を感じざる得ません。



編集後記

おてラジオ体操、大盛り上がりでした。特に最終日は、かき氷とキヤラメルポップコーンの力を借りて、三十六人の子どもが、集まりました。どこから湧いてきた！？ありがたいです。

来年も出来たらいいな。お手伝いの方に助けられました。いつも感謝です。



染 香

ぜんこう

福 泉 寺 寺 報
令和 5 年 9 月
第 119 号
毎月 1 日 発行

ホームページ



お寺 LINE



子ども行事



前々坊主が教えてくれたこと②

「楽しかったね。またやるうね」

そう言つて周囲を和ませたのは、ある葬儀での低学年くらいの子の言葉です。子どもだけでなく、久しぶりに家族親族が集まつて時間を共にするだけでも、大人にも大きな意味がありそうだということを教えてくれるようです。

先月の直子おばあちゃんの通夜葬儀ですが、今は、和やかな時間を過ごさせてもらつたという感覚が残っています。それにはやはり、我が家の三人の子どもの存在が欠かせません。

前日初対面の親戚のお姉ちゃんと、かくれんぼをして遊べるなんて、その純粋な感性が羨ましく思います。お姉ちゃんたちと出会えたことも、直子おばあちゃんがくれた『贈り物』と受け止めています。

人間である以上、大切なこと

それだけではありません。遊ぶことばかり考えていた下の子二人ですが、火葬の時は大泣きをしました。人間の身体に火をつけて骨しか残らないという現実を、本人たちは「ア

タマ」ではなく「カラダ」でも感じたでしょうか。

とにかく、大人である私ですら、どのように表現したらいいかわからないような出来事に触れる機会を得たことは、これからの人生において、大きな「財産」になること間違いなし、と信じています。

「財産」というと、私たちはどうしても経済的な事柄を連想します。

振り返れば、私が今まで生きてきて、「生活」を支える財産とは別の、「人生」を支える財産を、あらゆる人から与えてもらっているのだと思うのです。子どもたちにもそのように感じてもらいたい。

それは時に、当たり前すぎて、足元にあつて見えないもので、それゆえに感謝の気持ちも湧きにくいものかもしれません。

今月は満中陰の法事です。子どもたちには申し訳ないけれど、学校や幼稚園を休んでもらつて、私とともに、これら「財産の相続」をしてもらおうと思えます。

(ちなみに「相続」は仏教語です)

(住職)

真宗の法事 あれこれ



【一緒に読経】

先日、他宗派のお通夜に参拝しました。

「皆さんも一緒に読みましょう」ということで、お経本が席においてありました。

「皆さん、こんな感じなんだ。読みにくい！ 難しい！ けど、読みたい」

耳をすませば、かすかに他の方の声が聞こえてきます。住職さんも、なるべく読みやすいように配慮しているのが、息継ぎや抑揚の具合から感じてとれます。

朗々と読経声が響く縁もありがたいですが、このような「たどたどしさ」が残るお参りも、なかなかいいです。

皆さんも、「どうぞ一緒に」に。

ちょっと あたまの こりほぐし

奥さんが、野菜の中に入ってしまった。

さて、何の野菜でしょうか。

※ヒントは「いも」。答えは裏面です



おてらより

秋彼岸・永代経のご案内

日時：九月二十三日（土）十四時

講師：歓喜庵様、当山住職（予定）

『供養』って何だ

『永代経』と『永代供養』は

百八十度ちがう

ご参拝を心より心よりお待ち申し上げます。

無縁改葬のご案内

お寺の境内地にあるお墓について、使用者が不明のお墓を撤去する手続きを開始いたしました。当該墓に「プレート」を付けた。情報の提供を宜しくおねがいいたします。

